

2022年5月19日

静岡県知事 川勝 平太 様

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島  
理事長 小松 幸子

### 公開質問状

#### —三島駅南口東街区再開発事業「組合設立認可申請」に係る問題点—

新緑の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、「グラウンドワーク三島（GW三島）」は、市民・NPO・行政・企業とのパートナーシップにより、環境悪化が進行した「水の都・三島」の原風景・原自然の再生・復活に、30年間にわたり取り組んでまいりました。

その結果、ゴミが捨てられ汚れていた源兵衛川には、ホタルが飛び交い、水中花・三島梅花藻が咲き乱れる、誰もが感動する魅力的な水辺環境が蘇りました。2016年11月には「世界かんがい施設遺産」に、2018年1月には「世界水遺産」に登録され、三島の宝が世界の宝にブラッシュアップしました。夏には、昔のように、多くの子どもたちが川遊びに興ずる姿が見られ、年間720万人もの観光客が訪れる「水の都・三島」が再生しました。

現在までに、民間企業のマンション建設で改変の危機が迫った「旧三島測候所」や「三島梅花藻の里」の水源地、「養鱒所跡地」の宅地開発など、民間企業が買収済みの土地を、三島市長と議会の理解や市民の協力を得て、三島市による買戻しを実現し、マンション建設や宅地開発の撤退・中止を成し遂げて来ました。

しかし、今回の三島駅南口東街区再開発事業においては、「源兵衛川水辺再生事業」や「街中がせせらぎ事業」で行われてきた、市民との丁寧な対話や議論、情報公開の積み重ねによる「三島型・市民総意」の事業スタイルとは大きく異なっています。残念なことに、三島市や準備組合、事業協力者は、市民との数多くの議論や意見交換会を開催せず、詳細な事業内容の説明や情報公開が不十分な状態のまま、一方的に事業が進められています。

特に、高層マンション・商業施設・駐車場などの建設に関わり、「①工事費の増加による過大な市民負担、②命の水である地下水への悪影響、③伊豆半島ジオパーク三島ジオサイトの貴重な溶岩層の破壊と登録抹消の懸念、④富士山の景観美への眺望阻害、⑤駅前への

集客集中化による中心商店街の衰退、⑥慢性的な交通渋滞、⑦ビル風の被害発生、⑧日照問題、⑨想定される南海トラフ地震等の巨大地震被害」など、コロナ後やウクライナ侵攻の経済的変動を踏まえても、三島市への現実的な経済波及効果やメリットについては、問題点や不安ばかりが懸念され、準備組合としての説明責任を十分に果たしておらず、その閉鎖的な対応を認知することはできません。

今回の静岡県への三島駅南口東街区再開発事業「組合設立認可申請」に係る問題点を整理して、川勝平太静岡県知事宛の「公開質問状」として提出させていただきます。

なお、2022年7月4日(月)までに、市民・県民としても、納得・理解できる、明確な根拠・資料に基づき、文章にて、回答されるように、お願い申し上げます。

また、「公開質問状」の回答につきましては、公開の場など開かれた説明の機会を設けていただき、広く市民・県民に対して、わかりやすく説明していただくように、あわせ、強く要望いたします。宜しくお願い申し上げます。